

とみさかだより

平成27年4月発行

高齢者あんしん相談センター富坂 季刊誌

移転しました。

高齢者あんしん相談センター 富坂分室

高齢者あんしん相談センター富坂は平成25年1月より小石川2丁目に分室を開設いたしました。小石川で2年が経過し地域の皆様に知っていただき、相談される方々も年々増えてきております。

このたび、高齢者あんしん相談センター富坂分室は平成27年3月に礪川地域活動センターのリニューアルにともない、活動センター内の3階に移転いたしました。今後も、介護保険などの福祉に関すること、健康の維持・増進に関すること、高齢者の権利擁護に関することなどお気軽にご連絡ください。



- 住所 文京区小石川2-18-18
- 電話 03-5805-5032
- 開設時間 平日及び土曜日 9:00~17:30
* 日曜・祝日・年末年始はお休み



自立した生活を支援します

介護保険の相談をお受けします
介護や支援の必要となるおそれのある方へ
→介護予防プログラムの参加を支援します
要支援の認定を受けた方へ
→介護予防ケアプランを作成します

安心できる暮らしを守ります

高齢者の虐待の防止・早期発見を図ります
悪徳商法や消費者被害からの被害を防止するため関係機関と連携します
成年後見制度の活用を支援し、高齢者の尊厳を守ります

4つの柱でみなさんをサポート

さまざまな相談に応じます

高齢者の介護・福祉・保健・医療に関する総合相談窓口です
例) 最近もの忘れがひどくなってきた
近所の高齢者を見かけなくなり心配だ など

住みやすい地域づくりを支援します

地域のケアマネージャーや介護保険事業所の相談をお受けします
多方面(町会や行政など)と連携し、地域課題の解決に向けて、地域ぐるみで支えます

発行元

- ◆高齢者あんしん相談センター富坂(特別養護老人ホーム 文京白山の郷内)
住所: 文京区白山5-16-3 電話: 3942-8128
- ◆高齢者あんしん相談センター富坂分室(礪川地域活動センター3階)
住所: 文京区小石川2-18-18 電話: 5805-5032

～広がるハートフルネットワークの輪～



ハートフルネットワークとは、高齢者が地域で安心して生活できるよう見守りや声掛けをする取り組みです。今回は、東京和生菓子商工業協同組合の**田月堂・宇野文和さん**にお話を伺いました。

Q1 半世紀以上の歴史があるお店と伺いましたが、どのような場面で変化を感じますか？

A1 昔に比べて、**ご近所付き合いが、消極的になっている**と感じます。

町会では、敬老の日が近づくると祝い金やお菓子をお届けに行きますが、在宅していても、後日、不在通知を見て連絡いただくことがあります。

防犯の意味もあるとは思いますが、寂しい世の中になったなと思います。



Q2 お客さまの様子で変化に気づかれた経験にはどのようなことがありますか？

A2 ある高齢者の方が、**余るほどのお菓子を頻繁に買われるので、気になった**ことがあります。

後日、ご家族より介護認定を受けているとお聞きしました。

介護保険につながれば相談しやすいですが、そこに至るまでには、時間がかかりますね。

「認知症と戦っても仕方ない」という言葉が印象的でした。私も介護者の方にかけて言葉として使いたいです。(小高)



Q3 介護者の方へのアドバイスがあればお願いします。

A3 特に認知症の介護をしている方が「認知症と戦って」しまって苦しんでいるように思います。

同じことを繰り返し話された時に、それに腹を立てたり、「さっき聞いたよ」など言っては逆効果。

戦っても仕方ないし、ご近所にお知らせするくらいの方が良いと思うので、抱え込まないでほしいなと思います。

わたしの街の 見守り活動

初音町会

前原 基志 会長



町会のイベントや商店街のお祭りを通し、子供や高齢者が気軽に参加でき、世代間で交流が持てるようにしています。また、日曜祝日は通りを歩行者天国にして誰もが集える場所を提供しています。町会でも、年々高齢の方が増えており町会の婦人部と協力し、高齢者が参加できる活動を考えていきたいと思っています。



正しく使おう！車いす体験

介護者教室にて車いす講座を行いました。介護している方が実際に車いすに「乗る側」の体験をすることで、新しい発見ができました。

また日頃の点検ポイントを知り、負担の少ない操作方法を学ぶことができました。



活動報告

- 1/14 第3回富坂地域ケア会議
- 1/31 老い支度講座
- 2/17・3/13 認知症サポーター養成講座(りそな銀行)
- 3/12 同上講座(小石川郵便局)
- 3/5 安心ネット連絡会
- 3/25 認知症カフェ



【編集後記】私が毎朝聴いているラジオへの投稿も、春の訪れを告げる内容が増えてきました。その便りから私もエールをもらい、地域に飛び出していきたいと思っています。(浦野)

